

Ⅲ 用語の解説

Ⅲ 用語の解説

秋植え球根 冬から春に生長して開花し、夏までに球根が成熟して休眠する種類。(チューリップ、ユリ等)

秋まき一年草 夏～秋には種し、冬の低温を受けて開花する種類。なお、早春は種して夏咲く種類も入る。

アポーション 分化した器官あるいは原基が生長・発達をやめて器官が完成しない状態。

雨よけ 普通はスチールパイプ等を骨組みに使い天井部分だけビニール等を被覆した簡易施設。ここで栽培することを雨よけ栽培という。

暗期中断 光中断ともいう。光周期の暗期中に光を与えて、その暗期を分断すること。深夜に電照する。

萎縮そう生症 主にカーネーションなどに発生する生理障害で、節間が異常につまったり、各節から分枝が発生し、むらがった状態になる。高温・強日射・地下環境の悪化などが関与しているといわれる。

萎ちょう 草木が生気を失ってよわる状態。

一季咲き性 季節変化のあるところで年に1回、時期がきまって開花する性質を一季咲き性という。

ウイルスフリー ウイルスを持っていないという意味。茎頂にはウイルスがないか又は密度が低いので、茎頂を培養することにより、ウイルスがいない苗を作ることが可能である。

ウイロイド 現在最も小さい病原体とされ、キクわい化ウイロイド、キク退緑斑紋ウイロイドなどが報告されている。

裏ごけ 生育後半に栄養、水、温度などが不足して生育が悪くなり上部の茎や葉がしだいに小さくなった状態。

栄養生長 茎や葉などの栄養器官だけを分化、形成して生長すること。

腋芽 節に著生している葉のつけねにある芽。1節に1個が普通であるが複数つくこともある。

S-L植物 短一長日植物のこと。短日で花芽分化し、長日で花芽が発達する植物。(ハナショウブ等がある)

STS 硝酸銀とチオ硫酸ナトリウムの混合液でエチレンの作用を抑制し、切花の寿命を長くする。切花保存剤として用いられる。

越冬芽 リンドウ、シャクヤクなどの宿根草で、翌年生育する芽のこと。キクは冬至芽という。

F₁種 種間、品種間、あるいは同じ品種のなかの異なる遺伝子をもつ個体間の交雑種第一代。F₁で表わされる。

L-S植物 長一短日植物のこと。長日で花芽分化し、短日で花芽が発達する植物。(アスター等がある)

LSD 最小有意差。分散分析で、どの平均値間に有意差があるかを検定するための、判定基準となる数値。

園芸種 植物分類学上用いられる種ではなく、利用上分類されているもので、生産園芸・趣味園芸・厚生園芸(公園、庭園など)等で栽培されているもの。園芸種に対し野生種がある。

温暖地 年平均気温12～15℃の地域とした。なお暖地は年平均気温15～18℃の地域とした。

塊茎 地下茎あるいは胚軸が肥大して球状または塊状になったもの。

加温 ガラス、ビニール等で被覆したハウスの中を暖房器などで暖めること。

花冠 がくの内側に輪になって着き、一般にこれがよく発達して美しく着色するものが花弁。その集まりを花冠という。

花器 花を構成するがく片、花弁、雄ずい、心皮など、花全体を一つの器官という意味で用いる。

がく片 花の一番外、あるいは下にあつて、普通は緑色をしている花葉の集まり。その一つ一つをがく片という。

花形 花冠の形。花冠の平面又は側面の形を、いくつかの形に分け品種の分類に使われている。

花序 花の付き方をいう。花序には、穂状花序、集散花序、複散形花序等多くの種類がある。

仮植 播種床やさし木から苗床に移し植えること、または苗床での植え替え。

株分け 多年性植物の繁殖法の一つ。株を分割して増殖する、また、老化した株の再生を促す目的で行う。

花卉 花冠の項参照

花穂 デルフィニウム、ストックなど穂状花序となる種類で花が着生している部分を花穂という。花穂の長さを花穂長といい品質評価に用いられる。

花房 房状になった花の集まり。

カルス 正常な組織分化や器官形成を行わず、分裂を繰り返す未分化の細胞組織。

貫生花 花又は花序の中に反復して花又は花序ができる現象。長日下で花芽分化したキク、花芽が小さい時低温を受けたカーネーションはしばしば貫生花になる。

寒天培地 一般に微生物や植物の器官、組織、細胞などを生長、増殖させるため、寒天に必要な栄養物、ホルモン剤などを加えて固めたもの。固形培地と呼ぶ。

寒地 年平均気温9℃未満の地域とした。

寒冷地 年平均気温9～12℃の地域とした。

木子 一般に子球は母球の上位の腋芽が発達してできるが、その子球の下位の腋芽、または花茎の地下部の下位の腋芽が発達してできる小さい球根のこと。

季咲き 露地で自然に開花すること。露地で栽培することを季咲き栽培ともいう。

拮抗作用 ニつ以上の要因が互いに影響しあい、一方が他方に不利に作用すること。

キメラ 遺伝子型の異なる複数の組織が一の葉や花などの器官に隣接して共存すること。斑入りともいう。

キュアリング 球根など、傷から病原菌の侵入を防ぐため、組織の再生に好適な高温、高湿度条件で球根を処理すること。

吸枝 直立する茎の基部に生じ、地中を横に伸びて各所から根が出、芽は休眠芽にならず生長する枝。

休眠 生長に不適な環境に適応するため、生長を一時停止する生理的状态。休眠の原因が植物体内部にあって生長しないものを自発休眠、環境条件が生長に過ぎないため休眠してるものを他発休眠（強制休眠）という。

強制通風冷却 予冷庫内の冷気を送風機で強制的にかくはんし、予冷品に冷気を吹きつけて、品温低下を早める方法。

切花長 切花の切り口から最先端までの長さとした。

切り前 花の咲き具合を考慮した収穫時期いう。夏場や冬場など、季節（気温）や出荷先を考慮し決定する必要がある。

茎整理 宿根性植物などで、株もとから多数の側枝が伸長した場合、株の維持や切花品質の向上をはかるため、弱小茎などを間引くこと。

クラウン 地際のところで、節間が短縮して、肥大した茎の部分。

クリーニングクロップ 組織培養（茎頂組織培養）などで、得た植物が、ウイルスフリーになっているか検定するとき用いる植物。

クロロシス クロロフィルの合成に必要な元素が不足してカロチノイドだけの色合い（黄色や黄白色）のこと。

クローン 茎の頂端分裂組織を培養してできた栄養系のこと。

けん引根 球根類などで、母球の上の子球から根が出、この根が後に収縮して子球を地中に引き込む種類がある。

この根をけん引根という。

原種 新しく育成された品種の維持が原々種、実際栽培用として増やすための親を原種という。又改良、栽培化される前の元の種を原種という。

原基 将来いずれかの器官に発達して行く細胞あるいは細胞群で、ある程度分化が進み、形になり始めたものを原基という。

高冷地 本県では寒冷地の一部又は寒地のことを高冷地ということもある。県外では長野県全体を高冷地ということが多い。

高冷地育苗 気温が高い条件で育苗すると苗質が低下する品目がある。これらの品目を夏秋期に寒地で育苗することを高冷地育苗という。

腰水 育苗箱・植木鉢などの容器栽培で、その底から水を吸わせてかん水する方法、底面絵水ともいう。

個体選抜 1つの個体だけを選抜する方法。耐病性、耐虫性、耐寒性など生理的形質について選抜する時はこの方法で行う。

コールドトラップ 真空冷却で発生する大量の水蒸気が真空ポンプに流れないようにし、真空ポンプの能力低下を防ぐ装置

採花 切花をすること。切花時期を切り前という。

サイクリック照明 間欠照明ともいう。深夜電照のとき短時間ずつ継続的にくり返して照明すること。

彩度 色のあざやかさの程度。それぞれの色に白・灰・黒色の混じっている度合で、これらが混ざらないほど、その色は彩度が高くあざやかになる。

座死 いつまでもロゼット状態で生育して、正常な節間伸長と花芽形成をしないこと。

さし木 植物体の一部を切り離して適当な培地にさし、根あるいは根と不定芽を形成させて、新しい植物体を作ること。キク、カーネーションなどの繁殖に用いる。

さし芽 植物体の一部を切り離して適当な大きさに調製し、培地にさすことをさし芽という。

GA ジベレリンのこと。植物ホルモンの一つで、芽の休眠打破、発芽促進、茎の伸長促進、開花促進、花芽の成熟促進などの作用がある。

C-N率 炭素-窒素率のこと。植物体や有機物の炭素含有率と窒素含有率との割合。

CV値 標準偏差を平均値で割った値で、変異係数または変動係数という。平均値が極端に異なる集団の間で、分布のちらばりの大小を比べる時などに用いる。

シエード 遮光のこと。またシエード栽培とはキクなどの短日植物の開花促進、トルコギキョウなど長日植物の開花抑制のため、日長処理する栽培のこと。

自家不和合性 一つの株内の花粉及び同じ系統内の他の株の花粉でも受精しない現象のこと。

四季咲き性 季節変化のあるところで、開花期が定まらず、四季にわたって開花する性質を四季咲性という。

自殖弱性 自植をくり返すことにより、生育が徐々に衰え、収量が減少したり、耐病性などが劣るようになること。

雌ずい 花冠内にあり、花柱とその基部にある子房からなる生殖器官。

室内冷却 冷蔵車内の冷気を自然対流させて予冷品の品温を下げる方法。装置の構造が簡単であるが冷却速度が遅いので、主として予冷後の保冷库に使われる。

絞り 花卉の色が入りまじっていること。2色で花卉の先端が異色の場合は覆輪という。覆輪の項参照。

遮光 寒冷しゃ、遮熱ネット等で光をさえぎること。一般に切花の高温障害防止、苗の活着率向上などの目的で行う。

集団選抜 優良と思われる個体を集団で選抜していく方法。集団内で交互に交雑させ毎年同じ操作をくり返す。

重弁性 一般に一重の花の花弁が増加する性質のこと。八重咲きのことを重弁咲きともいう。

種苗登録品種 種苗法に基づき登録された品種のこと。登録品種は、その権利を持つ者以外は勝手に増殖できない。

種苗法 品種育成者の権利保護のために定められた品種登録制度。登録の有効期間は15年（永年作物は18年）である。

シュート 茎とその側部に着く葉やとげなどを一まとめにしてシュートという。普通は種子や芽が新しく生長したもののこと。

出らい 生長点が花芽分化し、その後、がく、花芽などが発達してつぼみになる。このつぼみが葉の間から出ること。又この時期を出らい期という。

順応 生物の機能、性質、形態などが与えられた環境条件に応じて、生活のために有利なように変化すること。順化と呼ぶ場合もある。

子葉 種子の胚を構成する器官の一部で、無胚乳種子では子葉が著しく肥厚して養分をたくわえている。普通は発芽後脱落する。

シンク ソースの項参照

真空冷却 予冷品の周囲の圧力を低下させて、予冷品から水分の蒸発を促進させ、その時に奪われる蒸発潜熱で、品温を下げる方法。

心皮 雌ずいのこと

ストレス 機械的障害（断根、摘葉など）、合成製剤（農薬、除草剤など）、環境条件の変化などの刺激に対し示す体内の反応

砂上げ 一般に、キク、カーネーションなどの苗が発根したら、苗床から掘り上げること。また掘り上げた苗をポットなどに仮植しない苗を砂上げ苗という。

S P A D 土壌・作物体分析機器開発事業の略称。農水省が中心となり効率的で、精度のよい診断を行うため各種機器を開発することを目的とした事業。

スプレータイプ 上部で数多く分枝して花をつけるタイプのこと。1茎1花のスタンダード、タイプ（輪物）に対する用語。キクは摘らいして輪物に仕立てる。

成群選抜 一定の基準により、形質の似たものを一括して一群を作り、各群それぞれ一団として比較試験を行い、最優良群を選抜していく方法。

生殖生長 花などの生殖器官を分化、形成して開花し、成熟すること

生長点培養 生長している茎の先端を取り出し、人工培地で無菌的に培養し、育てること。

セパル がく片のこと

セル成型苗 プラスチックなどを素材にして、小さな鉢（セルという）を多数つらねた連鉢（トレイという）を作り、これで育てた苗をセル成型苗（プラグ苗）という。

潜芽 陰芽ともいい、腋芽が生育せずにこん跡状になって残り、長年にわたって生長能力を保っている芽のこと。

ソイルブロック 田土、畑土などとピートモスを混合し、水を加えて練り、立方体状にしたもの。ここへキクな

どをさし芽してソイルブロック苗を作る。

促成 開花調節技術を活用し、季咲き（自然開花期）よりも開花期を早めること。このような作型を促成栽培という。

ソース 光合成により同化産物を生産する器官（葉、茎など）をソースという。又、同化産物を受け取る器官（球根、種子など）をシンクという。

ソフトピンチ 茎の頂部で柔らかい部分を摘心すること。下部の硬い部分の摘心はハードピンチという。

耐性 寒・暑、干・湿、強日射・日陰、病害虫などに対し抵抗力を持つこと。

たく葉 葉柄または葉柄とその着生部の茎に着く付属物で、形は葉身状、針状など様々である。

脱春化 種子や芽が低温にひき続いて高温を受けると、低温の効果が消えてなくなる現象。

抽だい ロゼット状で生育していた植物が節間伸長すること。又は宿根性植物がほう芽伸長すること。

地中暖房 定植床下の地中に鉄管などを配管して温湯などを循環させ、地中を暖めること。

T-R率 地上部-地下部率のこと。一つの植物体を地上部と地下部に分けたときの、その重さの割合。

抵抗性 耐性の項参照

定植 植物を植え替えることを移植といい、苗や球根を本ぼや仕上鉢など最後まで栽培する所に植えることを定植という。

低暖地 県内の標高が低い地域を低暖地ということがある。

摘心 生長中のシュートの先端を摘み取って、側枝を生長させる操作。分枝数増加、生育揃え、開花調節などのために行う。

摘らい つぼみを摘除すること。つぼみの数を少なくしたり、球根や株を養成するために行う。

天ざし 頂芽ざしともいい、シュートの先端（生長点）を着けた状態のさし穂を使って、さし木すること。

電照 キクなど短日性植物の開花抑制、トルコギキョウなど長日性植物の開花促進のため、薄明・薄暮又は暗期に白熱灯などで照明すること。

展葉 分化した葉が展開すること。

D I F 昼間と夜間の温度差。正のD I Fとは昼間の温度が夜間の温度より高い状態、負のD I Fとは昼間の温度が夜間の温度より低い状態。

到花日数 は種日、定植日、摘心日などから開花日までの日数

冬至芽 キクで秋に発生した芽はロゼット状となり、低温を受けて初めて伸長するようになる。このような芽を冬至芽という。

突然変異 ある品種や系統にそれまでなかった形質が突然現れ、あるいはあった形質が突然消えて、それが新しく変異しないかぎり持続する不連続な変異。

止め葉 花茎の最上位の普通葉のこと。

ドライフラワー 切花を乾燥させたもの。スターチス、ヘクリサムなど、もともと花卉やがく片の水分が少ないものはドライフラワーに適している。

取り木 地上部の枝に傷をつけ、湿った水ごけ、土などを巻いて発根させてから、親株から切り離す、栄養繁殖法の一つ。

ナックル バラなどの枝に出来る瘤の状態をいう。

二階球 フリージア、グラジオラスなどの球茎で、葉が展開せず、普通の生長をしないで母球の上に見える新球

茎のこと。

二期作 同じものを同一ほ場で年二回収穫すること。

日長 光周期で1日のうちの明るい時間（明期）の長さ。自然日長は普通は日の出、日の入りまでの時間に、薄明、薄暮各約20分を加えた長さである。

二度切り 同じ株で1回切花した後の切り下株から分枝を生長させ、二度切花すること。キク、デルフィニウムなどで行われる。

二年切り 一度植えた株を加温などにより二年間生育させ、その間に数回切花をすること。カーネーションなどで行われる。

ネクロシス 外部の作用によって炎症反応が起こり、植物体の組織の一部が死ぬこと。え死ともいう。

根ざし さし穂として根を用いる。栄養繁殖法の一つ。

ねむり症状 カーネーションなどで、花卉が内側に巻いてしばむ現象。エチレンが原因とされ、輸送中の温度が高い場合、またエチレンがそばにあると発生しやすい。

ノーズ りん茎の中にあって、普通葉をもち、後に地上に生長してくる芽のこと。

倍数体 染色体がその種の基本となる染色体の一組（ゲノム）の整数倍である植物を倍数体という。

ハイブリッド 異系統、異品種、異種属間の交配によって得た雑種のこと。

葉組み シクラメン栽培で葉を下方へ引きおろすこと。各々の葉に光が当たりやすくなるので、光合成速度が増加し、葉数が増えたり、花芽発達が促進される。

鉢上げ 植物を苗床から鉢などに移し植えること。

発芽 胚や芽が生長し始めること。種子の場合、土の上に芽が現われるのを発芽としている。

バーナリゼーション 春化のこと。種類により異なるが、ある一定の低温を受けることにより抽だい、開花する現象。発芽中の種子が低温を受けて春化することを種子春化（一年草）、生育中に低温を受けて春化することを緑植体春化又はグリーンバーナリゼーション（一、二年草、多年草）という。

葉水 葉が濡れる程度のかん水のこと。

春植え球根 春から夏に生長して開花し、秋に球根が成熟する種類。（グラジオラス、ダリア、カンナ等）

春まき一年草 春に播種して秋までに開花する種類。低温を要求せず、ある程度生長すると開花する。

バルブ 葉、茎、根が肥大して養分を貯えるものをりん茎、球茎、根茎、塊茎、塊根といい、花き園芸ではこれらをバルブという。なお、カトレア、シンビジウムなどの偽球茎のこともバルブという

BA ベンジルアデニンのことで植物ホルモンの一種。一般に、細胞分裂の促進、切り取った葉の老衰抑制、不定芽の形成と芽の生長を促す。

覆輪 葉や花卉、または花被片の緑の部分が異なる色になっていること。

ブラインド 花芽がその形成初期の段階で発達をやめ開花しない現象。又よく発達した花芽が枯れて死ぬ現象をプラスチックという。

ブラグ育苗 セル成型苗の項参照

プラスチック ブラインドの項参照

フラッシュポイント 真空度のこと。真空冷却において20 mmHg ぐらいの時急速に品温が低下するが、この時の値をフラッシュポイントという。

ブラッシング 樹木の若い芽が短い期間に急速に葉を展開し、茎が伸長する現象。

フラワーアレンジメント 幾つかの切り花を取り合わせて美しく飾ること。

ブルーイング 赤色品種のバラの花が、開花した後で青味がかかった色になること。

ブルーヘッド バラの奇形花の一つ。花弁が短く、雄ずいが不完全で、花床が盛り上がり、その形が雄牛の頭に似ているのでこう呼ばれる。

プロトプラスト 原形質体。植物細胞で細胞壁を取去った裸の細胞のこと。

分球 一つの球根から新しい球根が形成されること。又は母球から子球を分けること。

ベーサルシュート 基部で分枝して伸長したシュート、基部分枝のこと。バラなどで用いられる。

ペタル 花弁のこと。

ほう芽 生長を停止していた芽が生長し始めること。

母球 球根類で自然分球の元になる球根、あるいは人為繁殖に用いる球根。それにできた新しい球根を子球という。

ポット育苗 苗をポットで育苗すること

穂長 花穂長と同じ。花穂の項参照

保冷 予冷後の品温上昇を防ぐこと。そのためには冷凍車による輸送、出荷容器を発泡スチロールにして蓄冷剤（氷）を詰めるなどの方法がある。

マスキング 植物がウイルスに感染していても、はっきり病気の症状を現さないこと。

実生 種子が発芽して育った幼植物。、種子繁殖の意味で使われることもある。

水揚げ 水にさした切り花による水の吸水のこと。

ミスト 水を断続的に噴霧すること。さし木床をミスト装置内に入れ育苗することをミスト繁殖という。

無加温 ガラス、ビニール等で被覆したハウスの中を暖房しないこと。暖房せずに植物を栽培することを無加温栽培という。

むかご 地上茎の腋芽が肥大して小さな球根になったもの。しゅ芽ともいう。

むれ ハウス内の換気が不十分で高温多湿になること。

明発芽種子 光を受けることにより発芽し、暗黒条件では発芽しないか、または劣る種子のこと。

芽ざし 天ざしの項参照

メリクロン苗 茎の頂端分裂組織を培養してできた栄養系苗のこと。ウイルスがフリー化されている苗もある。

モザイク 体細胞突然変異により、基本組織と新しい組織とを合わせ持つこと。また、ウイルス病で葉色の濃淡が出る病徴をモザイク症という。

やく 雄ずいの先端にあつて、花粉をもっている部分。

柳芽（やなぎ芽） キクの花芽が分化直後に発達が抑制され、出らいしても萎縮してしまう。このような花芽を柳芽という。

山上げ 草花の苗やラン、シクラメンなどを夏の暑い期間、涼しい山間地などに移して栽培すること。

夜冷育苗 夏の暑い時期に夜間だけ冷却装置で気温を下げて育苗すること。

雄ずい 花冠内にあり、細長い花糸とその先端にあるやくからなる雄性の生殖器官。

ユニット 従来より一層実用的価値が高い遺伝的素質を創造するか又は選び出して、新しい作物の単位を育成すること。

葉形 葉身全体の形状。品種、系統により大きく異なる種類があり、切り花品質の重要な形質である。

葉しよう 単子葉植物の葉で葉身と茎との間にあり、普通は茎を包んでいる部分。

抑制 開花調節技術を活用し、季咲きよりも開花期を遅らせること。このような作型を抑制栽培という。

予冷 切り花の品質低下を防ぐため、切り花を出荷するまで低温貯蔵すること。また球根類などの低温処理の時本冷蔵を行う前の予備冷蔵のこと。

離層

葉や果実などが茎から離れるとき、特殊な細胞層ができ、そこから離れることがあり、その細胞層を離層という。

リップ しん弁花かんのこと。ラン科では花卉の1枚がしん弁になり、カンナでは仮雄ずいがしん弁と呼ばれる。外観的な名称で形態学的には統一された用語でない。

リードバルブ カトレア、シンビジウムなどの復茎性ランで、基部分枝して現れた最新のシュートをいう。これに対し古いシュートで特に葉が脱落したものをバックバルブという。

罹病 病気にかかること

輪数 1花茎についている花の数

りん片 ユリ、チューリップなどの球根は短縮肥厚した茎に、多肉化した葉が密に着生したもので、この多肉化した葉をりん片という。

冷房育苗 夏の暑い時期に終日冷却装置で気温を下げて育苗すること。

連作 同じ土地に同じ作物をくり返して栽培すること。

ロイヤリティ パテント品種を使用した場合の使用料金のこと。

露地 ビニールなどの覆いのない土地。このような所で耕作することを露地栽培という。

ロゼット 節間が非常に短くなった茎に葉が重って付いている状態。地際でこのような状態になっているものを低所、ある程度茎が伸びてからは高所ロゼットとした。

参考文献 「園芸植物大事典」小学館
「花卉園芸大事典」養賢堂
小西国義著「花の園芸用語事典」